

北海道日本海沿岸地域の持続性向上に資する生活環境と産業創出の道筋

日時：2023年1月17日（火）13:45～17:00（13時開場）

会場：かでの2.7 820 研修室（札幌市）・ZOOM ウェビナー

コンピーナー：高嶋孝寛（道総研中央水試），石井 旭（道総研北総研），濱田武士（北海学園大），佐野 稔（道総研栽培水試）

共催：北日本漁業経済学会，道総研水産研究本部，道総研建築研究本部

総合司会：佐野 稔（道総研栽培水試）

開会挨拶：木村伸吾（水産海洋学会長）

13:45～13:50

木村 稔（道総研水産研究本部）

13:50～13:55

趣旨説明：高嶋孝寛（道総研中央水試）

13:55～14:00

座長：佐野 稔（道総研栽培）

基調講演：

道内漁村振興に向けた新産業創出にかかる課題

濱田武士（北海学園大）

14:00～14:50

話題：

1. 日本海沿岸漁村を支えてきた水産資源の変遷

富山 嶺（道総研中央水試）

14:50～15:10

2. 日本海沿岸漁村の現状と事例分析から見えてきたもの

石井 旭（道総研北総研）

15:10～15:40

一休 憩一

15:40～15:50

座長：石井 旭（道総研北総研）

3. 道内における養殖業の新たな展開－余市ムールを例として－

清水洋平（道総研栽培水試）

15:50～16:10

4. 日本海沿岸ホッケ資源の効果的な付加価値向上について

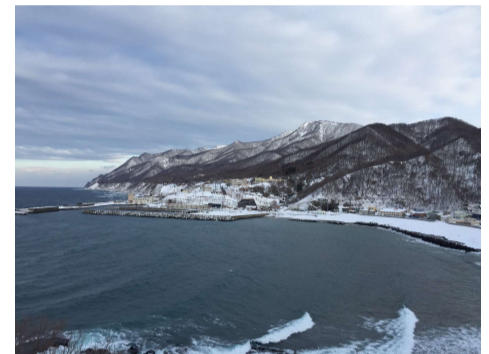
鎌水 梢（道総研中央水試）

16:10～16:30

総合討論：濱田武士（北海学園大）

16:30～17:00

閉会



開催趣旨：

北海道の日本海沿岸地域の漁村は人口減少，産業の衰退が他地区より先行し，地域の持続性を脅かしている。これまで地域を支えてきた来遊資源は大きく変動し安定生産を困難にしているだけでなく，魚価の低迷により収入を減らしている。このような水産資源の変動を起点とした状況変化は，漁村の水産業の衰退をもたらしているだけでなく，そこに暮らす生活環境の維持にも波及しつつある。一方，水産資源だけでなく，地域で活用できる資源（人材，立地環境，生活・産業基盤など）に改めて着目することで，その活用を見出すことが可能と考えられる。新たな養殖対象種による養殖の展開や，天然資源の特性をふまえた加工による高付加価値化は，漁村の経済と生活環境の安定に資するものとして今後の展開が期待され，すでに各地で萌芽的な取り組みが認められる。そこで，本シンポジウムでは道内漁村の現状を改めて理解し，課題解決のアイデアや事例をふまえて，生活環境と産業創出の視点から漁村の持続性向上の道筋を議論する。

参加登録 参加および視聴される方は参加登録をお願いします。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_ElgLCc45TumTmxhvQiyhtA

右のQRコードからもお申し込みできます。





地域研究集会

第7回北海道水産海洋地域研究集会

北海道日本海沿岸地域の持続性向上に資する生活環境と産業創出の道筋

日 時：2023年1月17日（火）13:45～17:00（13時開場）
会 場：かでの2.7 820 研修室・オンライン（参加登録方法は学会HPで告知予定）
コンパニナー：高嶋孝寛（道総研中央水試）、石井 旭（道総研北総研）、濱田武士（北海学
園大）、佐野 稔（道総研栽培水試）
共 催：北日本漁業経済学会、道総研水産研究本部、道総研建築研究本部

総合司会：佐野 稔（道総研栽培水試）
開会挨拶：木村伸吾（水産海洋学会長） 13:45～13:50
木村 稔（道総研水産研究本部） 13:50～13:55
趣旨説明：高嶋孝寛（道総研中央水試） 13:55～14:00

座 長：佐野 稔（道総研栽培）

基調講演：

「道内漁村振興に向けた新産業創出にかかる課題」
濱田武士（北海学園大）

14:00～14:50

話 題：

1. 日本海沿岸漁村を支えてきた水産資源の変遷
富山 嶺（道総研中央水試）

14:50～15:10

2. 日本海沿岸漁村の現状と事例分析から見えてきたもの
石井 旭（道総研北総研）

15:10～15:40

— 休 憩 —

15:40～15:50

座 長：石井 旭（道総研北総研）

3. 道内における養殖業の新たな展開—余市ムールを例として—
清水洋平（道総研栽培水試）

15:50～16:10

4. 日本海沿岸ホッケ資源の効果的な付加価値向上について
鎌水 梢（道総研中央水試）

16:10～16:30

総合討論：濱田武士（北海学園大）

16:30～17:00

閉 会

開催趣旨：

北海道の日本海沿岸地域の漁村は人口減少、産業の衰退が他地区より先行し、地域の持続性を脅かしている。これまで地域を支えてきた来遊資源は大きく変動し安定生産を困難にしているだけでなく、魚価の低迷により収入を減らしている。このような水産資源の変動を起点とした状況変化は、漁村の水産業の衰退をもたらしているだけでなく、そこに暮らす生活環境の維持にも波及しつつある。一方、水産資源だけでなく、地域で活用できる資源（人材、立地環境、生活・産業基盤など）に改めて着目することで、その活用を見出すことが可能と考えられる。新たな養殖対象種による養殖の展開や、天然資源の特性をふまえた加工による高付加価値化は、漁村の経済と生活環境の安定に資するものとして今後の展開が期待され、すでに各地で萌芽的な取り組みが認められる。そこで、本シンポジウムでは道内漁村の現状を改めて理解し、課題解決のアイデアや事例をふまえて、生活環境と産業創出の視点から漁村の持続性向上の道筋を議論する。